

履修者数, 物理学II・生物学IIが増加

移行点算出基準単位変更による履修者数の変化は如何程か。前回の前期開講分に引き続き, 今回は後期開講科目の状況について見てみます。

履 修登録取り消し期間(12月2日～8日)が終わり, 各科目の履修者数が確定した。移行点算出基準単位が変更になった今年, 理系基礎科目の履修者数にどのような変化が見られただろうか。ここ3年間の理系基礎科目の履修者数を比べてみよう(表1)。ちなみに, 学部別入試入学者であっても学科・コース選択の際に移行点に関わる場合が多いので, 理系1935人中, 1498人の学生に移行点に関係する。

表1 理系基礎科目の履修者数(人)

	2015年度		2014年度		2013年度	
	I	II	I	II	I	II
線形代数学	1709	983	1636	1177	1622	1186
微分積分学	1718	1426	1639	1459	1631	1431
物理学	1815	1776	1617	1526	1682	1543
化学	1849	1806	1779	1783	1831	1764
生物学	1795	1412	1409	1304	1456	1303
地球惑星科学	641	1055	805	1248	789	1230
合計	9527	8458	8885	8497	9011	8457

まず目に付くのは, 今年度の線形II 982人という数字だ。同年のIの1709人と比べ43%もの減少であり, 過年度の1186人, 1177人と比べても200人程少ない。実は, 一年生の履修相談を受けていて, 次のセリフを耳にすることがある。

「線形IIは難しいって聞くので・・・。」

過去に線形IIで苦労した先輩方から, 安易な気持ちで履修しないよう助言を受けるらしい。そのようなこともあり,

線形Iに比べIIの履修者は減少する傾向にあるのだが, 今年は例年にも増して減少となった。高校数学で行列を扱わなくなったことも影響しているのかも知れない。

各科目のIIの履修者数合計は8500人程で例年とほとんど変わりがない。例年と比べ増加したのは物理学IIと生物学IIで, それぞれ約250人, 100人増である。これは移行点算出基準単位変更の影響を直接反映したものと見て良いだろう(表2参照, 物理I・IIが必修*, 生物学I・IIのどちらかが必修*)。これらの増加分を線形IIと地惑IIそれぞれ約200人の減少で釣り合わせた形だ。

年度により学生の各理系基礎科目の選好性が大きく変わるとは思えないので, 今年度の履修者数の変動は移行点算出基準単位の変更によるものだろう。理系基礎科目は学部専門科目の基礎学修として非常に重要なものであり, 一年次にどの科目を取ったかが卒業まで影響することもある。今後の傾向に注視する必要があるだろう。

※移行点に必ず算入されるという意味, 卒業要件のことではない

表2 医学部を除く理系学部の移行点算出基準単位(基礎科目)

基礎科目	平成26年度	平成27年度
人文・社会科学の基礎 線形I,II 微積I,II 物理学I,II 化学I,II 生物学I,II 地惑I,II 心理学実験 自然科学実験	基礎科目から 自然科学実験を 含む9科目	基礎科目から 次の①～④を含む10科目 ①線形I,II 微積I,IIから2科目 ②物理学I,II 化学I,II ③生物学I,IIから1科目 ④自然科学実験

※線形代数学を線形, 微分積分学を微積, 地球惑星科学を地惑と略記している

※物理学(上級)は省略している

※実際の移行点算出基準単位表の表現とは異なる

※前々号からの再掲



「人生の転機をチャンスに変えよう」

アカデミック・アドバイザー
教育学研究院 教授 大塚 吉則



私は昭和48年医学部に入学しました。今でも学生番号48カ1537を記憶しています。生まれも育ちも旭川なので、生粋の道産子です。北海道が好きで、東京には行きたくなく、それなら北大だ、ということで受験しました。その頃入試科目は5教科でしたので、幅広く勉強しなければなりません。高2の時は地理で入試に臨むつもりで勉強していたのですが、その年の地理の問題が沖縄に関するもので、これは地理を避けようと世界史に乗り換えました。そして迎えた翌年の入試本番、世界史の問題を見たとき地理での受験に切り替えました。その頃はこういことができたのです。

北大の合格者発表は「都ぞ弥生」をバックに全道にテレビ中継され、テレビ前に座って受験番号と名前が流れるのをじっと見ていました。今では個人情報とかで番号のみがネットや大学の玄関先に掲示されるだけになり、デジタルの味気無さを感じています。7年前に2年間入試担当業務に従事し、とても大変な思いをしたのですが、いつの時代も受験は受ける方も受けられる方も大変な作業をこなしているのだと思います。

中学の頃から英語には興味を持っていたのですが、初めて英語を使ったのは、旭川東高へアメリカから留学生が来ていたのですが、その子が偶然同じ通学バス

に乗っていたので、後を追って下車して話しかけた時でした。“Excuse me. May I speak to you?” “Yes, …” “Do you have much snow like this?” 大したことはない英語ですが、これが通じて会話が成立した時は感激しました。そして、将来は英語を使って海外に出て行ける職業に就きたいと思うようになったのです。さて、ではどの大学を受験するか、なぜかしら東京にはあまり興味はなく、京都がいいな、そうだ京大の法学部でも出て、国際線のパイロットになってやろう、なんて脈絡のないことを考えたりもしました。でも裸眼視力が基準に満たないため諦め(本気ではなかったのでしょう)、結局北大を選んでしまったのです。

北大に入学してからも海外での生活のチャンスがないか、とずっと考えていました。今では新渡戸カレッジ、スクール制度があり恵まれていると思いますがその頃はなく、結局第一内科で博士号を取得した後に夢が叶い、ニューヨークへ研究留学できることになりました。初めて降り立ったニューヨークのJFK空港で、迎えに来てくれた受け入れ先の教授に、余りにいい秋の天気だったので、“Indian summer” だと言ったのを覚えています。

2年の予定だったのが1年半で帰国することになり、帰ってきたのが登別です。登別には北大医学部附属病院登別分院と

医学部附属温泉治療研究施設がありました。ミュージカル、美術館、ジャズ等々文化溢れるニューヨークから温泉しかない登別に赴任し、カルチャーショックを受けましたが、色々な意味でこれがなければ現在の私がいけないわけです。

温泉治療の臨牀・研究を行っていた両施設は医学部の方針で閉鎖され、私は札幌キャンパスへと異動になり、紆余曲折を経て保健管理センター(現保健センター)内科の所属になり、そこで再び転機を迎えることになりました。それは、漢方医学との出会いです。センター長が漢方医学の権威で見様見真似で始めた漢方診療ですが、今ではその魅力に取りつかれています。

現在60歳になり、書類などに年齢を記入するたびに年を意識するようになりました。もう少しで定年を迎えますので、また新たな転機・チャンスが巡ってくるでしょう。学生さんはこれから何度も転機を迎えることになるでしょう。そのたびにそれをチャンスと捉えて、新たな目標・価値観をそれに見出ししてください。そうすれば、その後の人生に魅力を感じながら生きていけると思います。

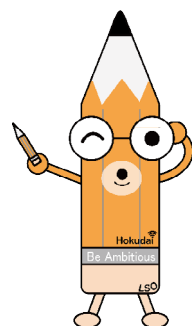
編集後記

すっかり寒くなってきたこの頃ですが、晩秋よりも初冬の方が暖かく感じられます。なぜでしょう。色々な要因が考えられそうです。以下は、今後の学部・学科等移行スケジュールです。

- | | | |
|---------------------------|---|-------------------------|
| 2月4日(木) 学部・学科等移行ガイダンス | → | 8日(火) 第1次振り分け結果表示 |
| 5日(金) 学部・学科等紹介<ラーサポ進路相談会> | | 第2次志望調査(~10日(木)) |
| 29日(月) 全学教育科目成績確定 | | 11日(金) 第2次志望登録(~14日(月)) |
| 第1次志望調査(~3月3日(木)) | | 15日(火) 第2次振り分け結果表示 |
| 3月4日(金) 第1次志望登録(~7日(月)) | | 補充振り分け登録(~17日(木)) |

ラーニングサポート室

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 電話:011-706-7526 E-mail:asc@high.hokudai.ac.jp
北海道大学高等教育推進機構2階 URL:http://asc.high.hokudai.ac.jp/



次号は3月発行予定です